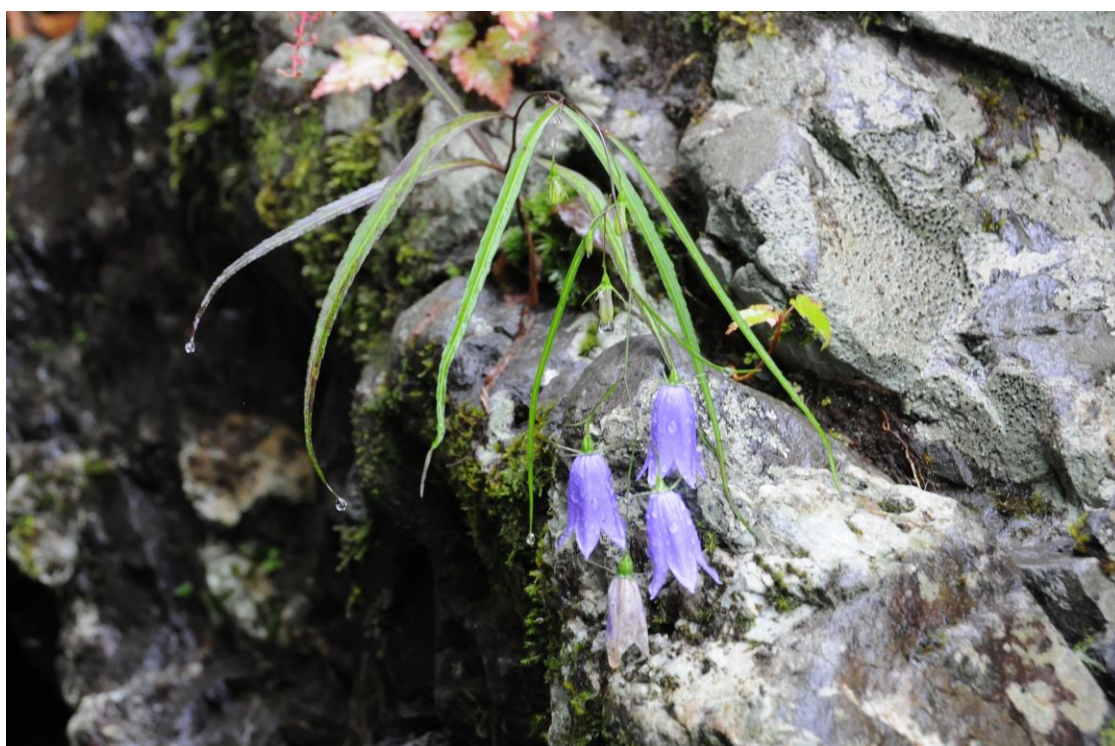


2021 年度 丹沢大山自然再生活動報告会 要 旨 集



イワシャジン *Adenophora takedae* Makino

1905年9月に武田久吉一行が玄倉川から塔ノ岳に登った際に発見された。

日時：令和3年12月18日（土）13:00～17:15

手法：オンライン形式（ズームミーティング&ウェビナー）

主催：丹沢大山自然再生委員会

共催：神奈川県自然環境保全センター

目 次

- 1 プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 活動・研究発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 総合討論（話題提供）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 4 宣伝用ポスター・チラシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

【プログラム】

日 時 2021年12月18日（土）13:00～17:15

13:00～13:05 開会あいさつ（丹沢大山自然再生委員会委員長 勝山輝男）

13:05～15:05 第一部 活動・研究発表（ズームミーティング形式）

- ① 丹沢大山自然再生委員会について
（丹沢大山自然再生委員会事務局〔自然環境保全センター〕 濱野祥子）
- ② 檜洞丸での定点撮影調査から見た植生の変化－2010年と2021年を比較して
（NPO法人丹沢自然学校 五十嵐 聡）
- ③ 自動撮影カメラを用いた神奈川県自然環境保全センター自然観察園における鳥類調査
（NPO法人野生動物救護の会 石塚康彦）
- ④ 「スタッフが見た丹沢10年」
（公益財団法人神奈川県公園協会〔秦野ビジターセンター〕 長澤展子）
- ⑤ 2系統のシロタニガワカゲロウが相模川に生息するのはなぜか？
（神奈川工科大学〔神奈川ウォーター・ネットワーク〕 金子裕明）
- ⑥ 日本紅斑熱ベクターマダニの分布－丹沢・箱根から三浦半島まで－
（日本獣医生命科学大学大学院 土井寛大）

15:05～15:35 休憩

15:35～17:15 第二部 総合討論（ズームウェビナー形式）

テーマ：近年起きている自然の脅威に対して、自然再生の取組はどこまで対応可能なのか？

- （1）3人の講演者からの話題提供
 - ① 令和元年の台風による森林被害～水源かん養機能のモニタリングの視点から～
（自然環境保全センター 内山佳美）
 - ② 秦野市におけるナラ枯れ被害の状況と対策について
（秦野市環境共生課 北村 栄）
 - ③ 丹沢大山登山環境意識調査から見えたもの
（丹沢大山ボランティアネットワーク 小林昭五）
- （2）コメント（鈴木雅一東京大学名誉教授、羽山伸一前委員長）
- （3）討論

17:15 終了

【研究・活動発表】

丹沢大山自然再生委員会について

丹沢大山自然再生委員会事務局（神奈川県自然環境保全センター）

濱野祥子

丹沢山地では 1980 年代からブナの立ち枯れ、人工林の荒廃、ニホンジカの個体数の増加に伴う植生衰退等、生態系に異変が起こり始めました。これを受け、丹沢大山に関わる民間団体・市民・学識者・企業等が実行委員会を組織し、平成 16 年～17 年にかけて「丹沢大山総合調査」を実施しました。様々な角度から調査した結果、人間の影響が積み重なり複雑に絡み合っ、丹沢大山の自然環境の劣化が引き起こされていることが判明しました。実行委員会は、この調査結果を「丹沢大山自然再生基本構想」にとりまとめ、神奈川県に対し政策提言を行いました。その後、自然再生事業を進める協議機関として、平成 18 年に丹沢大山自然再生委員会が設置されました。現在、丹沢大山自然再生委員会は 43 の構成員から成り立っており、県の行う自然再生事業に対して科学的な助言と評価、構成員の行う活動の支援、県民に向けたイベントを実施し、活動を継続しています。

【研究・活動発表】

檜洞丸での定点撮影調査から見た植生の変化 －2010年と2021年を比較して

NPO法人丹沢自然学校 五十嵐 聡

丹沢自然学校では檜洞丸および丹沢山で、年に一回、秋に定点撮影調査を行い、植生の変化を記録しています。今年は檜洞丸で定点撮影調査を行いましたので、その植生の変化をご報告致します。調査を開始した2010年と今年2021年の写真を比較すると、中腹では林床植生（スズダケ）が退行したものの、枯れて残っている稈の間から、ササの若葉がけっこう出ているのも確認できました。すぐそばの植生保護柵内では、ササがかなり回復していました。石棚分岐より上は、逆に、林床植生が回復していて、同じ季節なのに11年前と全く違う印象です。木道の間からシカが好物にしているはずのウツギが生えるなど、シカの管理捕獲の効果を実感しました。山頂付近のブナの立ち枯れは、同じ地点とは思えないような荒涼とした光景で、生き残っているブナも葉が減って元気がない感じを受けます。ただ、数年前、劇的に弱っていくのを実感したころに比べると衰退の速度は収まってきた印象を持ちました。

【研究・活動発表】

自動撮影カメラを用いた神奈川県自然環境保全センター 自然観察園における鳥類調査

NPO法人 野生動物救護の会 石塚康彦・小林夏子

2017年9月より自動撮影カメラを用い、神奈川県自然環境保全センターの野外施設に生息する野生動物の生息状況を把握する調査を行っている。その結果、自動撮影カメラには哺乳類だけでなく鳥類も多く撮影されることがわかった。そこで我々は、2018年(H30年度)から2020年(R2年度)までの3年間に4カ所の自動撮影カメラにて確認された、神奈川県自然環境保全センターの野外施設における鳥類相と季節による種の変化をまとめた。

過去3年間に調査地で確認された種は、計41種のうち3種はコジュケイを含む外来種、17種は神奈川県レッドデータブック2006に記載されるミゾゴイ(絶滅危惧Ⅰ類)やオオコノハズク(絶滅危惧Ⅰ類)、ハイタカ(希少種)を含む減少種、希少種、準絶滅危惧、絶滅危惧Ⅱ類、絶滅危惧Ⅰ類に指定される種であった。また夏鳥や冬鳥を含む渡鳥も確認され季節性も見られた。

【研究・活動発表】

「スタッフが見た丹沢 10 年」

公益財団法人 神奈川県公園協会（秦野ビジターセンター） 長澤展子

丹沢には県立ビジターセンター（以下 VC）として、西丹沢 VC と秦野 VC がある。

VC 業務として約 10 年前から本格的に実施し始めた自然公園情報収集（登山道情報収集）は、旬の情報を SNS 等で発信、展示室で紹介、電話問合せなどに活かし、VC の活動の基本となっている。

その 10 年の記録を見返すと、林床植生など自然環境の変化や自然再生事業の効果、新たな問題に気づくことができる。今回はおもに、その自然公園情報収集でスタッフが確認した丹沢の 10 年間の変化について取り上げたい。

短い期間でも感じられる丹沢の自然環境の変化。VC が設置されて西丹沢 VC は前身の西丹沢自然教室を含め約 50 年、秦野 VC は約 25 年が経過した。利用者やニーズも変化し続けている。そんな中、スタッフが自分の目を見たことを分かりやすく、多くの方に伝えていくことが VC の大切な役割であり、自然再生の取り組みとしても VC が貢献できるものだと考えている。

【研究・活動発表】

2 系統のシロタニガワカゲロウが相模川に生息するのはなぜか？

神奈川工科大学 金子裕明*・石綿進一*・高村岳樹
(*神奈川ウォーター・ネットワーク)

シロタニガワカゲロウは本州、四国、九州の河川中下流の緩流帯と一部の湖の湖岸に分布するいわゆる普通種です。山地や海峡が移動障壁となり地域個体群として9系統(A系統～I系統)が分布しています。関東地方にはA系統が分布していますが、酒匂川、金目川、相模川にはA系統とC系統の2系統が同所的に生息している地点があります。異なる系統が同所的に分布する理由を知るために相模川水系を河口から源流部まで詳細に調査し、24地点から187個体の幼虫を採集し、ミトコンドリアDNAのCOI遺伝子の塩基配列を決定し解析しました。その結果、相模川水系には下流から上流のすべての地点にA系統が生息し、中流部にはA系統とC系統が同所的に生息し、系統Cだけが生息する地点はありませんでした。これら2系統のシロタニガワカゲロウは相模川水系の在来であるのか？あるいはC系統の分布の中心である本州中部地方から侵入したものであるのか？遺伝的構造と相模川に発達する河岸段丘の研究から明らかになった古気候と合わせて解明しました。

【研究・活動発表】

日本紅斑熱ベクターマダニの分布 -丹沢・箱根から三浦半島まで-

日本獣医生命科学大学大学院 土井寛大・加藤卓也・羽山伸一

近年、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱といったマダニ媒介性感染症の発生が関東地方でも注目される。神奈川県内ではSFTSの発生はないが、日本紅斑熱は県西部で散発的に発生している。これらの感染症は主にマダニの吸血によって伝播することから、マダニの生息地と病原体保有マダニの種類を把握することが感染症の予防につながるだろう。本研究では、西丹沢山麓部および箱根の山地帯、藤野および伊勢原でマダニを採取し、PCRによる日本紅斑熱の病原体検出を試みた。地域間の陽性率は西丹沢山麓 13.3%、箱根 4.5%、伊勢原 0.0%、藤野 0.0%であった。また、病原体が検出された5種（タカサゴキララマダニ・キチマダニ・ヤマアラシチマダニ・ヒゲナガチマダニ・フタトゲチマダニ）についてMaxEntモデルで作成した生息適地分布予測から、5種で丹沢・箱根の山地帯下部、ならびにヒゲナガチマダニを除く4種で三浦丘陵に高い生息適度が示された。

【総合討論（話題提供）】

令和元年の台風による森林被害 ～水源かん養機能のモニタリングの視点から～

神奈川県自然環境保全センター 内山佳美

近年、全国で豪雨災害が多発しています。神奈川県でも令和元年東日本台風により全県各地で斜面崩壊等の森林被害が発生するなど、約50年ぶりの大きな豪雨災害となりました。しかし、現在の森林では斜面崩壊に弱い若齢林が少ないため、過去よりも斜面崩壊の発生は少なく、森林の山地災害防止機能は発揮されていると考えられました。一方で、従来の一般的な崩壊とは異なる樹木根系の及ばない深い層の崩壊が目立っており、極端な豪雨を起因とする森林状態以外の要因による崩壊が発生している可能性があります。こうした極端な豪雨は今後も頻発する恐れがあり、森林を良好な状態で維持することはこれまでに以上に重要です。さらに、今後も水源かん養機能を維持していくためには、山地災害防止機能にも着目した新たな森林機能の評価・対策が望まれます。

【総合討論（話題提供）】

秦野市におけるナラ枯れ被害の状況と対策について

秦野市環境共生課 北村 栄

秦野市では、平成30年に初めてナラ枯れ被害が発見されて以降、市内全域に被害が拡大しています。平成30年度及び令和元年度は、薬剤によるくん蒸処理を行い、被害の拡大防止に努めましたが、被害の拡大を踏まえ、令和2年度からは専門家の意見等を参考に、観光地等で倒木した場合に危険な木を伐採する安全対策を優先して行っています。

令和3年度は、新たな取り組みとして、弘法山公園でドローンを活用したナラ枯れ調査を実施しました。この調査結果等を基に設計書を作成し、来年度、里山林整備を行います。なお、伐採した木を散策路のウッドチップ舗装に活用し、散策路に人の流れを誘導することや林の中を明るくすることで、有害鳥獣が近寄りにくい環境整備も行っています。

里山で活動するボランティア団体等とも連携・協力しながら、コナラ等の更新や他樹種への転換など、今後の里山の在り方を検討し、里山の保全再生を推進していきます。

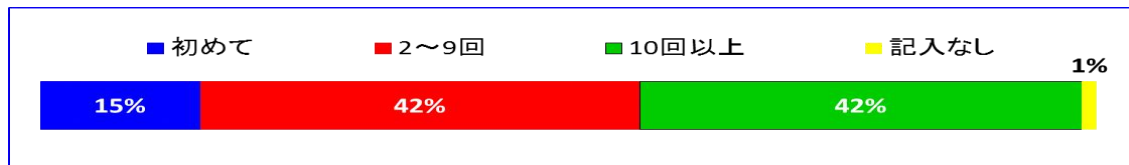
【総合討論（話題提供）】

丹沢大山登山環境意識調査から見たもの

丹沢大山ボランティアネットワーク 小林昭五

丹沢大山ボランティアネットワークは令和元年度6月から11月にかけて、丹沢大山地域への入山・登山者へのアンケート調査を実施しました。

★登山回数別に登山者の割合を調べました。



入山者の回数別割合に注目すると10回以上の方が42%と多いことが注目されます。

★登山回数と登山装備の所持について調べました。

登山装備のうち運動靴の割合は「初めて」が53%と多く、リピーターは登山靴の割合が高く、登山での経験から安全について学び、装備が充実して行く様子が見えました。

★登山届と提出状況について調べました。


登山届の提出状況は、「届出済・これから提出」42%、「知らなかった」24%と多く、丹沢入山者の増加に対し、私達環境団体の活動、影響力低下の側面が見えました。

★自然環境を保全するためには、どのような取り組みが必要か聞きました。

自然保護活動と共にトイレや登山道の整備、啓発活動等と多く寄せられました。

豊かな丹沢を次世代へ遺したいものです。

【宣伝用ポスター・チラシ】



2021年度
丹沢大山自然再生活動報告会
Zoom Meeting & Zoom Webinarにて開催
12月18日(土)
13:00~17:15
参加費無料

プログラム(予定)

1 開会あいさつ	13:00~13:05
2 活動・研究発表-Zoom Meeting-	13:05~15:05
スライド発表またはポスター発表 発表後に Zoom 会場からの質問受付と回答があります。	
3 休憩	15:05~15:35
4 総合討論-Zoom Webinar-	15:35~17:15
~近年起きている自然の脅威に対して、自然再生の取組はどこまで対応可能なのか?~	
(1) 発表	
① 令和元年の台風による森林被害~水源かん養機能のモニタリングの視点から~ 内山 佳美 氏(神奈川県自然環境保全センター 主任研究員)	
② 秦野市におけるナラ枯れ被害の状況と対策について 北村 栄 氏(秦野市環境共生課 森林里山担当課長)	
③ 丹沢大山登山環境意識調査から見たもの 小林 昭五 氏(丹沢大山ボランティアネットワーク 世話人会代表)	
(2) 討論	
5 終了	17:15

※お申し込みにつきましては、丹沢大山自然再生委員会ホームページ
(<https://tanzawasaisei.jp/>) をご覧ください。

2021 年度
丹沢大山自然再生活動報告会
要 旨 集

令和 3 年 12 月発行
編集・発行：丹沢大山自然再生委員会
〒243-0121 厚木市七沢 657